

病院経営本部に対し要請行動実施

# 都立病院の看護師確保のためには 四月の大量採用と実効ある離職防止対策を

7月17日、病院経営本部に対し「早急な看護師欠員補充と来年度4月の大幅採用を求め、要請行動を病院支部と衛生局支部で実施し、18名が参加しました。各職場の代表が現状を訴えました。要請書の内容と回答は下記のとおりです。離職防止対策は各病院とも看護科まかせではなく副院長を医療人材担当責任者とし、確保対策を病院全体のものとして考えていく、との新たな対応も示されました。

これからも安心した看護体制を確保するために力をあわせて頑張ってくださいましょう。

**えいせい**

第428号 2008年8月5日

都庁職衛生局支部  
発行責任者：小野塚 洋行  
TEL03-5320-7412 FAX03-3349-1502  
E-mail info@eiseikyoku-shibu.com  
ホームページ http://www.eiseikyoku-shibu.com/index.html

要 請 内 容	回 答
1 7月採用が23名になった原因を明らかにし、今後の対応を示すこと	原因 現勤務先を退職できなかった、専門試験がある、2交替制が入っていない、があるようだ。ナースプラザのアンケートではの専門試験があるためハードルが高いと思われ受験を控える、は2交代制がないので最初から受験しない。今後は 類試験では専門試験をやめて小論文と面接のみとする。10月採用試験は間に合わないの、そのあとの採用試験からとなる。
2 10月採用の160名確保の具体的な取り組みを示すこと	160名採用承認については、総務局がやっと認知してくれた。ナースプラザで行っている就職説明会には150名ほど参加して、その1/5を超える人数が、都立病院のブースをおとす。いろいろな機会に地道に対応しながら何とか確保していきたい。
3 09年4月は500名採用をめざすこと	病院経営本部も総務局に対して、年間トータルして一気に4月に採用して欲しいと言ってきた。来年は 類と 類を合わせて400名を超える。( 類380名) 都立看護学校の卒業生560名の約8割にあたる。確保のために仙台と新潟2ヶ所で地方選考を実施する。民間主体の看護フォーラムにも行っている。7月18日からは事務1名・看護部科長1名の8チームを作り、全国を回ることになっている。東北は秋田を除く全県。その他、他県に就職する学生の数値の高いところに行くことになっている。今後独自で7月19日・20日に説明会を開く。ほかに説明会があるところには行ってお願いしている。
4 現段階での募集規模と確保に向けた取り組みを明らかにすること	
5 退職者の年齢構成とその理由についての分析はされているのか。また、中堅看護師の退職防止策を何か考えているのか明らかにすること。	退職理由のほとんどが、結婚・育児・病気療養・介護などの理由になっている。しかし、病院によっては退職者数が偏っているの、退職者が多い病院には再度分析するようにと話している。
6 看護師確保及び処遇改善に向けた予算を確保すること	給与水準は都道府県政令都市61団体内看護師は9位、医師が最下位61位。看護師は低いとはいえないと思っているが、一概に給与水準だけをみても確保対策にはならないと思っている。経営本部の中でPT(プロジェクトチーム)を作って職種間の業務の見直しなどを行い、確保対策につながるよう努力していきたい。

## 100名の参加で「都庁9条の会」発足

都庁9条の会発足のつどいとコンサートが7月16日開催されました。都庁で働く仲間が思想信条を超えて、集まった「都庁9条の会」です。「憲法を守る」「戦争をしない」「赤紙は配りたくない」など各組合での取り組みの中で様々な意見がでました。

1947年に日本国憲法が施行されてから61年になります。日本は他国を侵略したり、他国民を殺したりしませんでした。憲法9条に明記されている「戦争の放棄、戦力の不



保持、交戦権の否認」が重要な役割を果たしているからです。

しかし、2003年3月米英主導によるイラク侵略が始まると、2004年1月小泉首相は憲法9条を踏みじり、自衛隊のイラク派兵を強行しました。このような危険な策動に対して良識ある知識人、井上ひさし、梅原猛、大江健三郎さんをはじめとする9人が2004年6月に「9条の会」を立ち上げ、「日本国憲法を守るといって手をつなぎ改憲のくわだてを拒むため、一人ひとりができるあらゆる努力を今すぐ始めることを訴えます」とアピールを發表しました。現在7千を超える「9条の会」が様々な運動を展開しています。

私たちが都庁で働く職員も「都庁9条の会アピール」を満場一致の拍手で採択しました。第二部は、中川美保さんのサクセスでの「さとうきび畑」や「長崎の鐘」など平和への思いを込めた演奏が参加者を魅惑しました。その後、岩手、大阪、広島の方言で「お国ことばで9条を」が披露されました。

秋には、誰でも気軽に参加でき、楽しみながら運動ができる企画を計画しています。ぜひご参加ください。

# 府中病院における医師の勤務状況に関するアンケート調査結果について

3

(えいせい427号の続き) 府中病院分会

## 仕事に追われて業務が雑になりそう38%

毎日のゆとりについて (図2(8)参照)

労働科学研究所特別研究員産業医の阿部氏は良好な労働環境の条件として「ゆとりとつながり(絆)」を強調している。業務が雑になっていると回答している38%の医師は、おそらく集中力の低下を自覚していな

## 相談できる48%

## あまり相談できない28%

業務上の事で職場内で気軽に相談出来るかについて(図2(9)参照)で述べた職場内の「つながり(絆)」を問うたものである。阿部氏によると、強いストレスが加わっても「つながり(絆)」があれば乗り切れるのである。あ

## 辞めたい人の44%は業務が集中、疲労度の蓄積など

府中病院で医師を続けたいかについて(図2(10)参照)「辞めたいが続けるしか

た22%の医師は医師としての責任感も、強い疲労により破壊されていると推測される。この2つを回答した44%(30人内常勤医22人)

の医師について、詳細な集計をし全体群と比較をした。「辞めたいが続けるし

かない」と「辞めたい」と回答した合計件数を「辞めたい群」とした)

・1ヶ月の「残業時間100時間以上」の割合 全体群23% 辞めたい群30%  
・当直時睡眠時間「0時間と1時間未満」の割合 全体群13% 辞めたい群30%  
・身体の疲労度の「大変疲れている」の割合 全体群36% 辞めたい群47%  
・注意力低下の「よくある」の割合 全体群63% 辞めたい群70%  
・取得したい年休日数「20日程度」 全体群34% 辞めたい群50%  
・精神的ストレスの「抑鬱的になる」の割合 全体群54% 辞めたい群53%  
・業務のゆとりの「仕事が多くなる」の割合 全体群37% 辞めたい群53%

・気軽に相談できるかの「相談できない」の割合 全体群28% 辞めたい群50%  
全体群と辞めたい群の差が10%以上の項目が5項目である。辞めたいと考えている44%の医師に業務が集中している事や職場内でのサポートが低下・疲労度の蓄積など働く環境が悪い条

## 医師の健康と医療の安全を守るため 私たちの8つの提案

意見・要望のコメント集について(資料1) アンケートに際してコメントをいただいた。医師の悲痛な現実と助けを求めるメッセージが読み取れる。真摯に受けとめ対応を模索したい。

### 【まとめと提案】

この度のアンケート調査により、当院においても問題が深刻であることが分かった。医師不足は長時間労働を必然化させている。それが医療の質を低下させ、医療事故発生と訴訟件数増加をさせている。疲労困憊した医師は過労病発症・退職を余儀なくされ、更に医師不足・診療閉鎖という悪循環になっていると昭和大学産婦人科部長岡井氏は指摘している(図5参照)。

件に傾倒していることが分かる。何かのきっかけで退職されるかもしれない「退職準備軍」である。一人の医師の退職は退職の連鎖を生み診療が困難になる。これは病院崩壊へと辿る道である。病院を辞めたい医師が合計44%の存在は脅威である。

している(資料1参照)。医師が過労病を発症してからの対応、あるいは退職を決定されてからの対応では、医療崩壊の悪循環から引き戻すことは出来ないであろう。

医師不足が解消されない現状で、医師の長時間労働の改善は困難を極めている。しかし、医師の健康と医療の安全を守るために、以下のような事を提案する。

1 週間の勤務時間(実際の勤務時間)の上限を定める。  
医師の1週間の勤務時間を把握し管理する。  
宿直で睡眠が取れず、連続勤務が24時間を超えた時は診療を制限する。  
1ヶ月に1日の年休を取得させる。  
超過勤務手当の正確な申請を促す。  
非常勤医の超過勤務手

当てる適応と宿直手当の支給をする。  
医師業務の簡略化と、医療事務のクラークによる代行を再検討する。  
慢性疲労と抑鬱的になつていく医師に対して産

業医が対応する。  
以上、医師の健康を守り、そして医療の安全を守るという意識を高めて、改善策の立案と実行をしていただきたい。

## 教育費の負担が心配!

「こづかいがほしい!」  
「家計はゆとりなし!」

公務員労組連絡会は毎年「6月家計簿調査」を実施しています。  
御協力いただいた組合員のみなさんありがとうございます。  
家計簿調査をやってみての感想を紹介します。

収入 - 支出 = 20,750円黒字となりましたが、被服、履物を購入しなかったためと光熱費を節約したからと思う。住宅ローンが苦しい、こづかいがほしい。

住宅ローンがおおきな負担となっているのは、わかっているが、ローンを考えた(組んだ)時と家族の状況に变化があり、苦しい生活状況である。

現金支出は月10万円前後なので、家計費はさほど大きくないと認識していたが、天引きや引落しをいれと、支出総額に驚いてしまった。子どもの教育費が増える今後が心配である。

収入と支出の差があまりなく、生活にゆとりがないことが改めてわかった。

こどもの教育費はこれからかかることを考えると、どうやって生活をきりつめていくのか頭がいたい。